

“こだわりが詰まった”国立環境研究所訪問エコツアーレポーター参加報告

人間環境学部人間環境学科

三年 藤元 優衣



私が本ツアーに参加した目的は、自身の学部での学びに生かせると思ったからです。これまで私は、人間環境学部で社会、自然、人文科学といった幅広い分野における持続可能性について学んできました。そのなかでも、近年急速に深刻化している環境と人間の社会活動の相互作用について興味があり、これについての学びを深められることを期待してエコツアーに参加させていただきました。

今回、訪問した国立環境研究所の所内には、国内最大の微生物系統保存施設や気候変動適応センター（CCCCA）が設立されています。またそこでは、化学や生物分野の研究のみならず、世界規模の地球環境問題の提起、啓発も行われています。

最初に見学させていただいた微生物系統保存施設では、顕微鏡を用いて微生物を観察したり、微生物の具体的な生態について研究員の方から直接お話を伺うことが出来ました。また、食品や化粧品に使用される赤色や緑色の天然色素が微生物によるものであると知り、微生物は身近な存在であると思いました。さらに、ガラスでできた殻を持つ珪藻を採集し、美術作品に仕上げる珪藻アートの作品からは、珪藻の新たな可能性を発見できたように思いました。

次に訪れた気候変動適応センター内では、日本各地での気候変動による影響とそれに対する適応策についての講義を受けました。これまで私は、環境変化による影響を人間は回避すべきであるという考えを持っていましたが、その影響を受け止め、生活の中で適応していくべきであると考えようになりました。また、この柔軟な視点は、人間と環境の共存に有効であると思います。

最後に、国立環境研究所での研究は、持続可能な未来を創っていく上での基盤となり、社会全体に大きく貢献していると思います。この度は貴重なお時間をいただきありがとうございました。